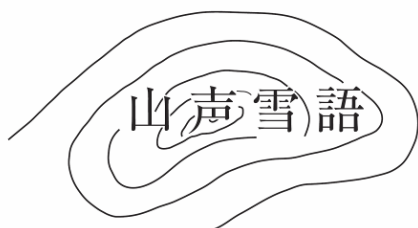


# 京交山岳部報

## 例会予告（2018年6月～2018年7月）

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2783回 京都府下一斉清掃登山 Gコース 高雄～保津峡落合	6月3日（日） 集合 AM 9:00 市バス 高雄バス停	岡田茂久 方山宗子	高雄～清滝～保津峡落合
<p>（備考）今年も下京山岳会と合同です。皆様のご協力をよろしくお願い致します。 手袋、ゴミ袋は用意しています。火ばさみを持参頂ければ楽です。雨天決行です。 集めたゴミの集積は途中の清滝及び落合で行います。 （参考）市バス8号系統 日曜ダイヤ 四条烏丸発 8:08 四条大宮発 8:13 西大路四条発 8:18 太秦天神川駅前発 8:28 高雄着 8:54</p> <p>※ 帰途は希望者のみ トロッコ保津峡駅～（トロッコ列車乗車）～トロッコ嵯峨駅のコースを予定</p>			
第2784回 紀伊 法師山 （1等△1120.2）	6月 9日（土） ～10日（日） 集合 参加者で調整	井戸澄夫	9日京都～(阪和道)～日置（泊） 10日日置～百間山溪谷～登山口 ～法師山往復～帰路
備考 日置川の海沿いの旅館に泊ります。帰路は富里温泉に入浴します。			
第2785回 全日本登山大会 京都大会 おこしやす京の山	6月16日（土） ～17日（日）	清水康裕	
<p>備考</p> <p>6月16日（土）オープニングフェスタ 受付：12:00～ 場所：亀岡市 ガレリアかめおか 入場無料</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記念講演 辰野 勇 氏「夢と冒険 今、リーダーに求められる力」</li> <li>2. 山のシンポジウム テーマ「山の過去・今・未来」 登壇ゲスト：辰野 勇 氏（冒険家）、貫田宗男氏（登山家）、柳沢大貴氏（山小屋経営者）、 平山ユージ氏（フリークライマー）、小林由佳氏（フリークライマー）</li> <li>3. プレゼント抽選会</li> </ol> <p>6月17日（日）京都一周トレイルトレッキング（京都市／3コース） 8:30～9:30 受付後スタート 参加無料</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東山コース：伏見稲荷～清水寺 京阪伏見稲荷駅斜め前公園 集合</li> <li>2. 北山コース：比叡山～大原 八瀬比叡山ケーブル乗り場 集合</li> </ol>			

3. 西山コース：苔寺～清滝 苔寺正門から約300m先 集合 ※我が部は大会スタッフ（東山コース）としての参加もあります。			
第2786回 渡邊智生氏 坂井久光氏 追悼登山 大文字山	6月30日（土） 集合 AM 9:00 地下鉄山科駅 改札口	清水康裕	山科駅・・・毘沙門堂・・・ 大文字山・・・銀閣寺
備考 渡邊氏は一周忌(H.29.7.7.逝去, 81歳), 坂井氏は H.30.5.1.に逝去(93歳)されました。			
第2787回 富士山を眺めよう	7月 9日（月） ～12日（木）	吉田 武	テント泊装備, 費用3万円 詳細は参加者で調整
1日目 京都～塩尻～高ボッチ高原キャンプ場・・・高ボッチ山往復(泊) 2日目 高ボッチ高原～岡谷～日向坂峠・・・黒岳(1等△1792.7)往復～河口湖キャンプ場 (泊) 3日目 河口湖～富士吉田・・・新倉山(4等△944.2)往復～本栖湖キャンプ場 (泊) 4日目 本栖湖～点名「平山」(2等△697.5)～田貫湖～点名「安母山」(2等△513.9)～帰路			
夏山大会 燕岳～常念岳～ 蝶ヶ岳	7月27日（金） ～31日（月） 集合 参加者で調整	清水康裕 山下幸宏	詳細は参加者で調整
備考 山小屋泊, 夏山縦走装備。			
<b>6月の集会</b> 日時 6月13日（水）18:30～ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)		<b>6月の企画運営委員会</b> 日時 6月20日（水）18:30～ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)	
<b>7月の集会</b> 日時 7月11日（水）18:30～ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)		<b>7月の企画運営委員会</b> 日時 7月24日（火）18:30～ 場所 holly's café (ホリーズ カフェ)	



坂井 久光 さん

T・H

今の部署で3年目になった。相変わらず日々忙しく、何か気持ちが落ち着かない日々を送っているが、精神的に成長させていただいている。ただ、年齢による衰えはいなめなく、若い職員と対等に仕事することは、なかなか難儀に感じる今日この頃である。

残念なことに、5月1日に名誉部員の坂井久光さん（1924年（大正13年）5月15日生、享年93歳）がご逝去されました。坂井さんには、京交山岳部の例会で京都市内の東山を歩いた後、清

水部長と私に三条京阪駅で1時間位お話しをされたことが最初の強い印象としてあります。それから、早や二十数年経ってしまったと。

私が坂井さんからお礼で頂いた手紙に、ご自身のことを記されていました。どこかで山岳部報で紹介しようと思い、怠けていました。少し長くなりますが、ここに紹介させていただき、ご冥福をお祈りしたいと思います。なお、解読できない文字は「●」にさせていただきましたことご了承願います。

合掌

【お手紙（平成25年8月21日）】（原文のまま）

四年前の大怪我以来、山へも行けない事となりました。思えば元気な時代には、日本の一等三角点の山五百二十三の山（五百米以上）を全部登った時がうらめしく、今は「地藏」と言う丸太町通りの太秦のバス停前の保育所（老人センター）に火・水・土の三日通っています。

連日暑い猛暑日が続きますが、四年前に亡くなった女房が、悪運が強いと言っていたことがあります。幼時は病弱で、四歳から中学二年の間、疫痢に似た病気で一時息が止まったことがあると、看病した父が教えてくれたこともあり、京二商時代は、一・二年の間、要養護の要注意と言う、同窓三百人中で一番病弱な生徒だったのです。三年になって、父が兵隊検査迄持たんだらうと言って、勉強をするなり言ったので、そんなら、友達が空気銃を持っているから買って来てと言ったら、ダイアナの三十円の空気銃を買ってくれた。それから、学校から帰ると、友達と当時住んでいた桂の雀を打って、その内、桂中の雀がかしこくなって私が来るとすぐ巢に隠れて、打てなくなり、友達と滋賀県の町迄打ちに行ったこともあり、桂から西山に入り、桜の木に止まっている山鳥をその下迄行って打落したり、長岡天神に住む友人の西小路さんと共に長岡の池のカイツブリを、鷺を打ったりして三年を暮らした。

四年になるとその間病気をしなくなり、元気になったのを認めて、父がお前を上級学校に行かせてやる。但し、家から往復出来る学校で、官公立でなければならぬと条件をつけたので、桂から通える学校は大阪商大しかないことが分かった。彦根高商はその頃、桂から二時間半位かかっていて無理だった。それであきらめるかどうか考えたが、受けてすべったらもともとだからやって見ようと考えた。成績は一年間遊んだので、級の五十中、二十番以下になった。そこで受験に必要な参考書を父に要求したが、一通り買ってくれたが、英語の小野圭の頻出問題集を買ってくれなかった。

四年になって隣組の小谷隆一氏と同級となり、彼が山岳部長をしていて、私に入部をすすめた。私はその頃登った山は愛宕山か比●山かポンポン山位だったが、西山へ鳥打に行ったこともあり、早速応じた。そしたら彼は喜んで、私に家に来いと言ったのでそれに応じた。

その頃の彼の家は姉小路三条下るにあり、行って見たら、立派な家で、当時は大丸、高島屋等の百貨店の包装紙を卸していた。彼は一人息子で妹が二人いて皆美人だった。姉は二年下の府二高女で、私が初めて行った時ケーキとコーヒーを持って来てくれた。彼の書斎は広くて参考書が沢山あり、あいている本なら何でも使えと言ってくれ、簿記の計算問題を解くのに沢山●紙がいったので、本当に助かった。

四年の一年間、彼と皆子山や貴船や鞍馬の山々を共に登った。

五年の始め頃、モギ試験があり、始めは三番、次は二番で、三回目には秀才の一番の●さんを負かして一番になり、先生方からお前大常部だと言われたが、尚一層晩一時頃まで勉強し正月から朝四時に起きて勉強した。それでも入学試験の結果は受験番号一番だったので、入学後●ったが、一二〇人中十一番六〇〇点の内四〇七点だった。

私の学生時代は終戦前の配給米二合三勺の時代で、教練や、私予備学生の試験を受けたが、学生時代に肺浸潤をしたのが原因で、視力が二.五で海軍の試験官が惜しがって、三回も試験をしたが、二七〇〇ccで三千ccなら合格だったので、残念だったが、あの時受かっていたら現在の私はいなかったと思う。

その後、繰上卒業で松下電器産業に入社したが、昭和十九年十月赤紙が来て満州国の牡丹江省の二七三部隊に入隊され、昭和二十年八月一日に幹部行●●の伍長任官し、十五日の終戦で西満の森林地帯を一日近く逃周り、九月十日頃にソ連軍と会い、ウラジオストックから帰してやると言われて一同貨車に乗ったが、翌日着いた処はアムール河の新興都市コムソモリスクだった。そこで捕虜となり、谷川の水を飲んだ●●、赤痢になり、カームス●ヤと言う女医から、●い薬を食わされ、私が最初に私迄の人が十人以上いた。ひれい九死に一生で、二十年の冬は病院で暮らし、二十一年の六月に退院し、山地の伐採地に送られ、直径一米位の木を2人で三本切倒して、末口十四cm長さ七米の材を三本とり、二人で九本の材を作ったが、それでも70%の70%しかとれず、増食を得たことは一度もなかった。

その後、翌年に私のいた部隊は富山、長野の伐採をした人が多い部隊だったので、ハラショラポーターとして二十二年の四月、ナホトカに送られ、帰国する事になったが、私の部隊は元気な者ばかりだったので、四月に帰れるのに、六ヶ月雑用ではたらかされて、十月に舞鶴に無事帰還する事が出来た。

その後、松下電産に行き、幸之助社長に会い、三十分程シベリヤの話をさせられて、京都の松下無線に（九条車庫の北）に行けと言われて行ったが、先輩の社長が今会社は落目で、お前のような若い者なら他の会社に行った方がよいと言われて、退職金千円でやめて、その後職を探したが、進駐軍の四条烏丸の大建ビルや特別調達庁につとめたがなくなり、交通局に入局した次第で、電車課で近藤氏（山岳部長）と知り合い、山岳部に入り、山め●釣で、今西錦司氏と知合い一等三角点研究会を作り、彼に顧問になって頂いて、一番の会員の三谷に二代目を譲ったが、●件を起し、三代目を大槻氏に譲り、私の時代より以上に大きくなり、会員も一五〇人をこす次第である。今後ともよろしく。

(2018. 5. 20 記)

【第2780回例会】H30.4.18~19

## 南木曾岳 (1,679 m)

烏丸 山下 幸宏

例会予告第2780回で御坂山塊、節刀ヶ岳を登る計画を立てていたが、私自身の都合で非常に残念であるが、急きょ取り止める事とした。理由は、たいしたことではない。11時間の連続乗務で疲れ果ててしまったからである。(いつも遊びなら意地でもとりやめなかったが40を過ぎてから次第に体力低下が・・・)という事で、近場で行きたかった南木曾岳を思い浮かんだ。また、麓の登山口でテントで一泊したかった。天気はよくないが私は、とにかく京都から脱出したかったので、実行する事とした。

18日0:00 井戸さんを迎えに行き、出発。途中、恵那峡SAで仮眠。例の「いびき」で寝られず。7:40 中津川ICを出て、時折雨のきつい中、国道19号を北上し、倒産した南木曾ホテル(今年秋から大江戸温泉になるらしい)前を通過、登山口に8:30頃到着。2時間程雨が止むのを待って車内で待機する。10:00をまわると空は明るくなり始め、同時に雨はほぼ止んだ。私達は、急いで身支度を済ませた。10:30 歩き始める。駐車場横にゲートがあり、そこに立派な避難小屋もあった。林道を進み、30分程で登山路と下山路の合流点。案内板が有り、推奨通り時計まわりのコースを行く。そして花崗岩の岩がゴロゴロあるやや幅の狭い沢を2~3回渡った。昨夜からの雨で増水ぎみ。金時の洞窟という大きな岩横を通過、ここから南木曾岳の山頂までは急登の連続となる。丸太で作られた階段が続き、滑るので注意して歩いた。下草に笹が混じるようになれば高野槇林だ。階段混

じりの道はぐんぐんと標高を上げていき、所々木々の間から麓の方面を見ると倒産した南木曾ホテルがよく見えた。そして、かぶと岩と言われる岩の説明の書いてある看板を過ぎれば最後の急登となり、登りきるとやっと緩傾斜帯に出た。私は、いつもながら汗がすごく吹き出ている。ここからほぼ平坦な道をたどって南木曾岳の山頂に 12:52 到着した。ここは樹木に遮られて展望はほとんどなく、石碑と二等三角点、四角いベンチがあった。私は、この先の展望の良い場所で食事をしたかったが、腹が減ってたまらなかったの、井戸さんより一足早くここで昼食とした。山で食べるラーメンはいつも通り格別だった。約 30 分後、井戸さん到着。お互い食事休憩が済んだところで再び歩きだしたら、あっという間に山頂避難小屋が建つ北峰に到着する。笹が茂り気持ちの良いところだった。巨大で丸い花崗岩があり、ここは三角点がある本峰より広々としており展望もよいが、なにせ雨上がりなので、完全な眺望は、得られなかった。さらに下山ルートを進み、東峰へ向かう。ここからは、わずかだが登り返しがあった。そして摩利支天と呼ばれる箇所があって、ここから恵那市、瑞浪方面、名古屋市内も一望することができ、満足した。下りも頂上台地から下山を開始するが、梯子が連続する急な下りとなった。足を踏み外しての転倒や転落に細心の注意を払って足を運んだ。思ってもいない急なくだり坂だ。やがて下りを終えると上り道との分岐点に到着し、あとは、行きと同じ林道に戻り 16:15 駐車場。そして当初の予定では、登山口の避難小屋で一泊するつもりであったが、井戸さんは、宿で手を打った方がいいということで、ここから近い昼神温泉で宿泊する事となった。(出発の直前、井戸さんが予約)下山後、車を走らせ、17:30 昼神温泉に着いた。そして宿で、しこたま反省会をした。

翌 19 日 快晴で、雲一つもない。8:30 宿を出発、ここまで来たらもう一つの楽しみである花桃と駒つなぎの桜鑑賞と写真撮影であった。(私だけの楽しみ) 駒つなぎの桜は満開→散り始めであったが、十分綺麗であった。私のカメラのシャッターは、軽快にうなっている。また、国道 256 号沿は、花桃が満開。「園原の里花まつり」も開催され、周辺は賑わっていた。帰路は飯田インターから自宅を目指す。途中、南アの眺めが最高であった。(やや霞んでいたが)ついでに、飯田インター手前の「JA みなみ信州りんごの里」で土産を買って帰京した。

◎あ～南木曾岳よ、思ったよりハードだったぜ。

【参加者】井戸澄夫 山下幸宏

※コースタイム

- 18 日 0:00 京都出発～宇治東 IC (京滋バイパス・名神・中央) 恵那峡 S A で仮眠～  
 7:40 中津川 IC～(コンビニで朝食)～8:30 南木曾岳山麓駐車場(雨のため待機)  
 10:30 山行開始・・・11:00 登山口(登山路と下山路の合流点)・・・13:10 南木曾岳山頂(2 等▲1679m)(昼食)13:40・・・14:20 摩利支天展望台・・・16:00 登山口(合流点)・・・(16:25 駐車場～17:30 昼神温泉「ひるかみの森」(泊)
- 19 日 帰路 15:30 山下自宅





【第2781回例会】平成30年5月10日

## 妙高山（点名・妙高山） 2等三角点 564.7m

吉田 武

やや曇り気味の天気であるが、山陰道を福知山市三和町千束にナビを合わす。R9から芦洲の信号を左折して府道59号を兵庫県丹波市市島町多利の神池寺の境内に駐車した。この付近はクリン草の群落で、みごとに咲き誇っていた。しばし写真を撮り写していざ出発。妙高山の看板に従って歩き出す。スギの伐採した後の木々や、枯葉にしばし踏み跡を見失う。何とか赤いテープを探すが、なかなか見当たらない、兵庫100山と言われる山にしてはお粗末な状態である。何回かテープを探しながら登っていくが、はっきりした踏み跡が見つからないままやっとの事で踏み跡を見つけて登った所が頂上であった。約1時間かかったが、神池寺からのルートは間違いやすい。所々にはしっかりした道標があるが、その間は踏み跡らしきところを探さないと間違いやすいので、テープをしながら登った。

頂上では写真を撮り写してすぐに下山した。途中の看板で「左 神池会館」「右 神池寺本堂」と書いてあるので、神池会館（宿泊設備のある研修会館）は登るときに通ったので、神池寺本堂と書いてある方に下山したが、これがまた大変。テープを探すのに大変な下山コースで、白色と黄色のテープは杉の伐採目印のようでコース目印とは違い非常に紛らわしかった。標高400m地点でやっと林道に出たが、方向は間違いがないので進むと、当初登ろうと思っていたコースに出た。

車で通った車道を、神池寺の駐車場まで700m、途中で雲海の展望台があったので展望してみるとうまく山が重なって、撮影場所としていいところだと思った。駐車場に着いてみると、先ほど車道を歩いているときに追い越していた車の人が、これから神池寺から妙高山に登ると言うので、ハイキングコースと思って来たようだったので、道に迷うからお寺にお参りして帰るように言った。すぐに了解してもらったが、コースが解りやすいようお願いしたいものだ。

【参加者】 他1名



神池寺境内のクリン草



妙高山 右奥の全景



妙高山2等三角点



登山道のアカカシの木

## 高ボッチ山にて撮影・守屋山・北八ヶ岳を歩く

烏丸 山下 幸宏

5/17 21時、自宅出発、翌18日夜中の1時40分、高ボッチ山頂付近到着。気圧の谷が近づいているので気温は12℃で高く薄雲がかかり、星空撮影は不可。明け方の富士山撮影に期待する。やがて日の出が近づいて来るが、湿度が多いため、撮影時刻になっても富士山は薄っすら僅かに見えるだけで、撮影不可。八ヶ岳連峰後ろにかかる雲は焼けている。

次は、塩嶺御野立公園展望台に行き、ベンチに座り諏訪湖と周囲の景色を30分以上一人で眺めていた。そして茅野STから152号で杖突峠、ソーラーパネルがいっぱいある駐車場に11時前に着き、守屋山に登り始める。小中学生約200名と途中挨拶をかわしながら歩き、12時16分東峰、西峰に12時40分到着。雲は所々厚く、周辺の山々しか眺望が得られなかった。そして昼食のラーメンをザックに入れ忘れたため、私は食事なしと思っていたが、「カロリーメイト食べられますか?」と言ってくれたので少し分けてもらってそれを食べた。お茶以外行動食も入れ忘れていた。下山は往路を戻る。15時ちょうどに駐車場、本日の宿である上諏訪温泉「油屋旅館」に向かう。夕食は、近所の小料理屋に行き乾杯した。この時点で雨はまだ降らず、深夜から翌19日明け方まで、きつく降った。7時に出発、途中、食材を買い、麦草峠を目指す。この日は、麦草ヒュッテに宿泊するので、先に手続きを済ませ、車を止めさせてもらった。9時15分、曇りだが、天気は急速に回復傾向、丸山(2329m)に向かって歩く。コケが綺麗であった。10時過ぎ丸山、そして高見石小屋を通過、中山(2496m)に向かう。ここからやがて高度が上がるにつれ、雪解けの影響で登山道は川になり、遂に中山展望所に近づくほど雪が登山道を占領していた。登りのため、アイゼンいらず。中山展望台に出ると眺望抜群、雪は全くない。風がかなりきつい。そして中山から天狗岳に行くつもりであったが、時間がないので諦め、コメツガの木々に隠れて昼食後、(にゆう 2351m)に向かう。13時50分、(にゆう)に着いた。最高の展望であった。20分位一言も言わず、景色を眺めながら写真を撮って今までの経験、これからの自分について自問自答していた。ここからひたすら下り道を歩き、観光客の多い白駒池を通過、16時ジャスト、ヒュッテに戻った。そして簡単な風呂に入り、18時頃からステーキ肉を焼くなどして楽しく夕食。20時過ぎ、星空の撮影を開始、まだ消灯時間ではないが、私が撮影していることにヒュッテのスタッフが気づき、玄関の電気を一時的に消してくれた。撮影は成功したと当初喜んでいたが、結局のところ自宅で確認するとピンボケだった。悔しい。9時前には宿泊者全員寝床に入っていた。

20日6時20分、天候は快晴で気温0℃。今日は八柱山に向かう。途中雨池に7時13分到着した。静かで池は美しかった。そして緩やかな登山道を進み、八柱山(2114m)7時40分到着、眺望は、あまり良くない感じ。だれもこの場所には来ないと思っていたが、下山時、雨池に出る直前に2人すれ違った。そして池を半周するかたちで雨池峠に向かい、ここから急坂を登って縞枯山(2403m)、進行方向右手に見える抜群の眺望を楽しみながら茶臼山(2384m)を通過、麦草ヒュッテには12時に戻ってきた。ここで昼食を済ませ、とても親切な対応をして頂いたヒュッテの方々にお礼を言い、麓の「河童の湯」に入り、買い物をして茅野駅周辺をうろうろして帰京した。自宅には21時15分到着した。

5月半ばで、新緑時期の八ヶ岳山行は初めてであり、とても美しかったため、心が癒された。休み明けからの業務に精を全力で出す気力となった。また、久しぶりに特別な山旅となった。

【参加者】山下幸宏



中山展望台にて



「にゅう」から佐久穂町方面を望む

## 京交の三巨星・坂井久光氏を偲ぶ

大槻雅弘

京都市交通局山岳部が岳界で輝いた時期、近藤薫親分の下に、伊藤潤治氏と坂井久光氏の双璧あり。この三名の大先輩がついにみなさん、黄泉に旅立たれた。坂井久光氏が5月1日午前8時38分93歳老衰で亡くなられた。

皆さん、お三方それぞれ強い個性をお持ちだったが、中でも自他ともに認め、群を抜いて我が道を行かれたのは、坂井さんである。坂井さんを語るエピソードには事欠かないが、誰も真似ができなかったのは、何と言っても「山に人生を賭けた人」の一言に尽きる。

敢えて部内会報誌でもあるから、一つ二つは書いておこう。

京都市交通局へ入局され、退職されるまで各所の職場を転勤された。そこでの働きと行動では「山が一で、仕事は二」が坂井さんだった。本人の口から出た言葉は、「大学を出て同期はトップの交通局長。俺は辞めるまで、一係員」を自負されていたことでも「山が一で、仕事は二」が頷ける。ただ、はた目からみると、能力があるのに少しは仕事にも力を出されたらと、思ったものである。また、山がそうさせたと言う象徴的なことに、山旅から帰ったときは、「親の葬式は終わっていた」こと。書けないことはまだまだ……。

一方、山岳関係の人脈は凄かった。交通局山岳部で右に出る人はいない。亡くなられた方、現役等敬称を略するが、京大教授今西錦司をはじめ日本山岳会会長斉藤惇生、日本200名山の深田クラブ会長小林厚、十二支会高木崎男、京都府山岳連盟小谷隆一、ノータリクラブ会長新田雅一。そして極めつけは、今西錦司を顧問に創設された「一等三角点研究会」会長として、北海道から九州までの岳人である。そしてその行動は、京都岳界でも名を馳せた。

その集大成が、1996年10月30日。京都都ホテルで「全国一等三角点五四八座完登をたたえる会」が開催されたことである。この偉業は日本で初めてではなかろうか。併せて執筆活動も旺盛で、「一等三角点日本百名山」を山と溪谷社から発刊された。ほかにユニークな著書として「槌の子蛇と金鵝の正体を発く」を平成19年に発行されている。

人生の最後まで、山にかけてマイペースで過ごされた偉人。おそらく何の不満もなく黄泉に旅立たれた大先輩。心からご冥福をお祈りいたします。合掌

略歴 1924. 5. 15 金沢市生まれ。京都市立第二商業学校卒業 大阪市立商科大学高商部卒業。1949 交通局入局。京都市交通局山岳部入部。69年間在部。



## 例会報告(まとめ)

例会 No.	目的地	天候	月 日	担当者	参加者	記 事
2780	南木曾岳	雨 のち 曇り	平成 30 年 4 月 17 日(火) ～19 日(木)	山下幸宏	井戸澄夫	別稿詳報
2781	丹波 妙高山 (2 等△546.7)	曇り	平成 30 年 5 月 10 日(木)	吉田 武	他 1 名	別稿詳報

## 雑 報

### △△△ 5月の集会

日 時 5月9日(水) 18:30～  
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)  
出 席 者 井戸, 大倉, 大槻, 岡田(茂), 岡本(勇), 岡本(義), 方山, 森本,  
吉田, 清水 10名  
内 容 例会報告, 例会予告, 個人山行, 岳連関係報告ほか

### △△△ 4月の企画運営委員会

日 時 4月25日(水) 18:30～  
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)  
出 席 者 井戸, 方山, 吉田, 清水  
内 容 例会予告, 岳連関係報告ほか

### △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

5月号 京都山岳, 趣味の登山, 比良山岳, 木雞

### △△△ 部報発送担当からのお知らせ

職場の異動に伴い, 部報の発送先, 発送方法に変更がある場合は, 必ず部報発送担当者(松田)まで連絡してください。

パソコンに部報データを送信することもできます。送信希望の方はパソコンのメールアドレスを部報発送担当者に連絡してください。

△△△ 平成 30 年度部費受領について

部費は年間 3,000 円です。また、郵送希望の方は郵送料 1,000 円を足して年間 4,000 円です。

平成 30 年 5 月 21 日（月）現在、先月号までに報告した方々に加え、次の方から平成 30 年度部費を受領していましたので報告します。

（敬称略）岡本 勇，堀田 剛，清水康裕

## 《新入部員募集中》

平成 30 年 6 月 1 日

京都市右京区太秦下刑部町 1 8

京都市交通局内

# 京 交 山 岳 部

<http://kkmc.web6.jp>